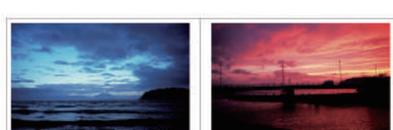


2021年8月下旬 配本予定

元田敬三『渚橋からグッドモーニング』

元田くん、俺もいま返子だからさ、
渚橋の“なぎさカフェ”でコーヒーでも飲まない？
つもる話は、その時に…（森山大道・帯文から）



元田敬三『渚橋からグッドモーニング』

B6 変型横 (207mm×137mm)

ソフトカバー／カラー／384ページ

写真と文：元田敬三／帯文：森山大道

編集：池谷修一／ブックデザイン：宮添浩司

言語：日英

定価：4950円（本体4500円＋税10%）

写真家が撮り続けた日常は、いつしか我々の人生と交わっていく。

元田敬三は路上で出会った人々に声をかけ、まるで恋するように写真を撮る写真家である。スナップとポートレート。多くはモノクロームの男気溢れる世界。そんなまっすぐな写真行為を続け写真家としての確かな評価を集めてきた。

結婚し、青年期を過ぎた。

人生の伴侶との確かな道のりとともに子供たちは海辺で大きく成長していた。気づけば日常にカメラを向けるようになっていた。

日記のように綴られる日付入り写真の集積。

しかし当たり前過ぎていく日々には、本当に大切なことが刻まれていた……。

舞台は返子の海辺、東京、各地のストリート。

人々との邂逅、子供たちの輝き、そして母の旅たち……。

ページをめくるにつれ写真家の日記は、いつしか我々の人生と交わっていきます。

365点にのぼるカラーポジによる写真と日々を綴った文で構成された、

見ごたえ読みごたえのある写真集になりました。帯文は森山大道氏が執筆！

森山氏からは、本作へこんな言葉もいただいています。

「日記と日録は、しぶとく、したたかな日々の記録＝写真に他ならない。」

作者のことばから

早朝のアルバイトをはじめた。毎朝通勤で通る渚橋からの風景はいつも予想とは違う驚きに満ちたものだった。来る日も来る日も写真を撮った。次第に毎日の繰り返しは決して同じ繰り返しではないことに気付き身の周りのことに強い関心を持つようになった。些細な出来事や大切な瞬間を敏感に受動出来るようになったことで荒れていた心は次第に平静を取り戻した。

大切なことが溢れている。渚橋からグッドモーニングと呪文を唱えると水面で魚が跳ねて鳥の群が頭上を旋回する。タンクトップの老人は体操を始め、三脚に望遠レンズのカメラマンは朝焼けの富士を狙う。白い船が沖へ向かう。嗚呼、渚橋からグッドモーニング。

■元田敬三 もとだ・けいぞう

1971年、大阪生まれ。桃山学院大学経済学部卒業後、写真家を志し、ビジュアルアーツ専門学校大阪に入学。在学中96年に第33回準太陽賞受賞。97年に大阪新聞にて路上で出会った人の写真とエッセイを1年間連載。現在の写真行為の原点となる。写真とは人出会う為にもっとも有効な手段である。と共に、写真は行為であり恋である。心がハットしたらシャッターを切る→スナップショットで時代を切り開く。主な個展に「ON THE STREET, OSAKA」(ガーディアン・ガーデン、1996)、「SNAP OSAKA」(photographers' gallery、2002)、「Sunday Harajuku」(ウェブサイト、2013)、「御意見無用」(MEM、2018)など。主なグループ展に「東京・TOKYO 日本の新進作家 vol.13」(東京都写真美術館、2016)、「ドレス・コード?—着る人たちのゲーム」(京都国立近代美術館、熊本市現代美術館、2019)ほか。

展覧会情報

- ・展覧会「渚橋からグッドモーニング」8月22日～9月5日 コミュニケーションギャラリーふげん社 2F
- ・展覧会「御意見無用」8月26日～10月24日 入江泰吉記念奈良市写真美術館

▶ご注文はツバメ出版流通まで

FAX: 03-3721-1922

TEL:03-6715-6121

mail:info@tsubamebook.com

http://tsubamebook.com

| | | |
|-----------------------------|-------------------------|--------------------------------------------------|
| 貴店名（番線印） | 新刊 ふげん社 | https://fugensha.jp 返品条件付注文扱い 返品了解 ツバメ出版流通：川人 |
| ご注文数 | 元田敬三 『渚橋からグッドモーニング』 | |
| ISBN978-4-908955-11-2 C0072 | 定価4,950円(本体4,500円+税10%) | |
| ご担当： 様 | | |